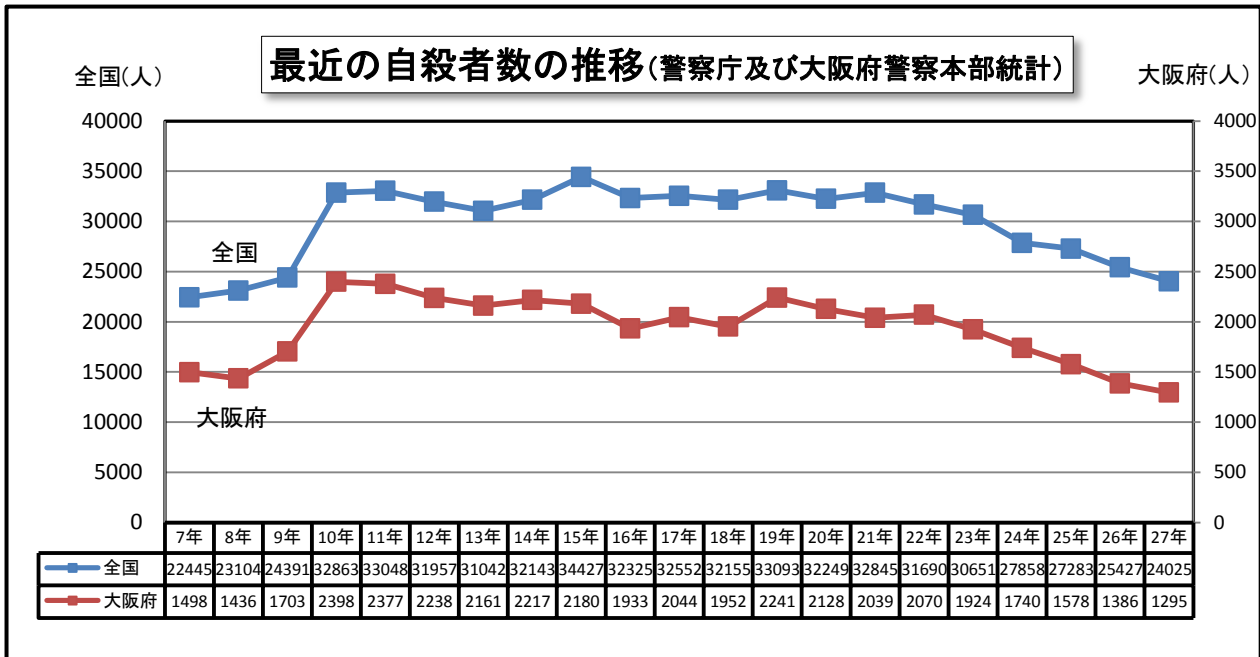
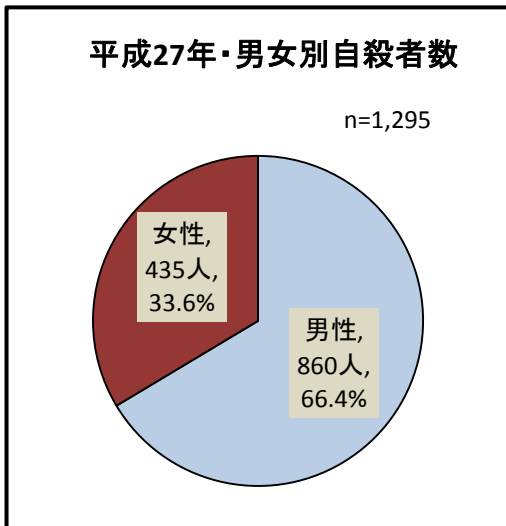


大阪府の自殺の概要<平成27年>

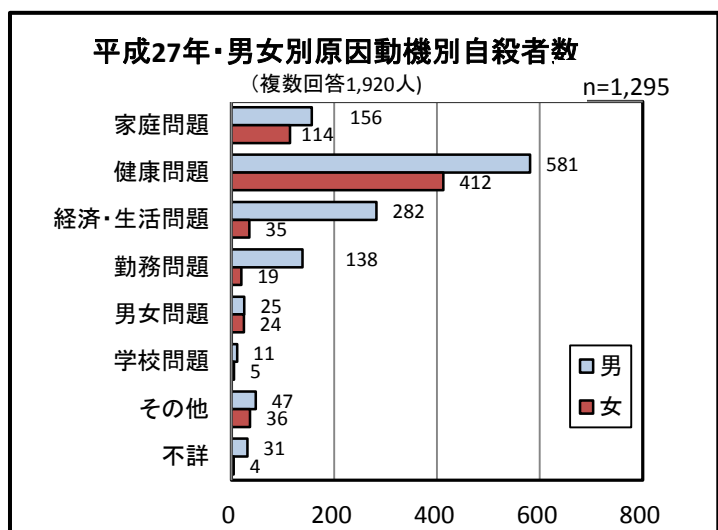
※警察庁及び大阪府警本部統計



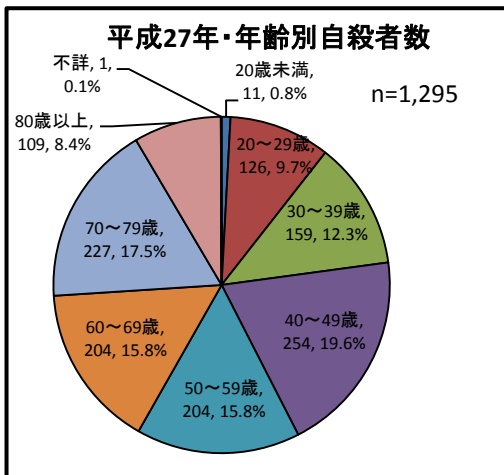
全国の自殺者数は、平成10年以降3万人を超えており高止まりの状態でしたが、平成22年から減少傾向となり、平成24年から継続して3万人を下回っています。
 大阪府の自殺者数も全国と同様に推移し、平成10年に2千人を超え、一気に3割以上の増加後、若干の変動はあるものの、横ばい状態で推移していましたが、平成23年より減少傾向となり、2千人を下回りました。平成27年は前年より91人減の1,295人と、年々減少傾向にあります。



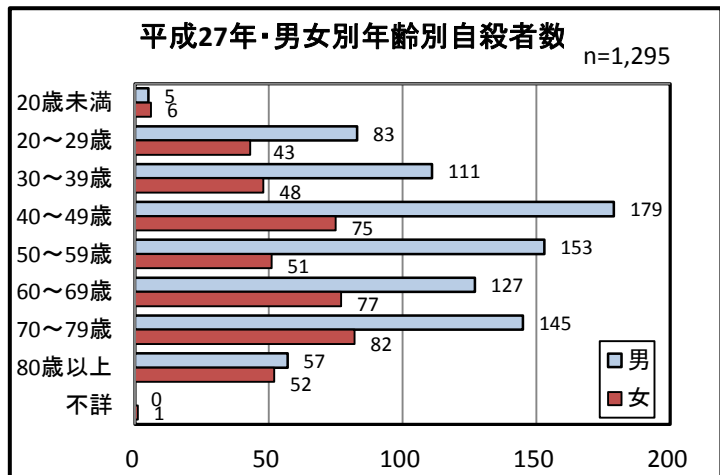
男女別自殺者数は、男性が860人(66.4%)、女性が435人(33.6%)となっており、依然として男性の数が女性の約2倍となっています。



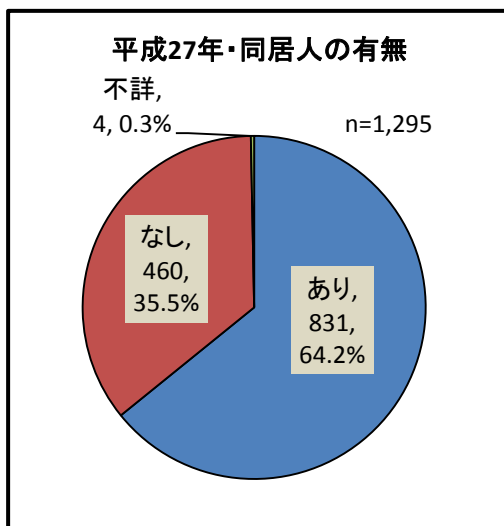
平成19年から原因・動機を3項目まで計上することとしており単純に比較はできませんが、昨年同様「家庭問題」「健康問題」「経済・生活問題」の3項目が男女共に上位を占めています。男性の「勤務問題」と女性の「男女問題」が、昨年より、若干増加傾向にあります。



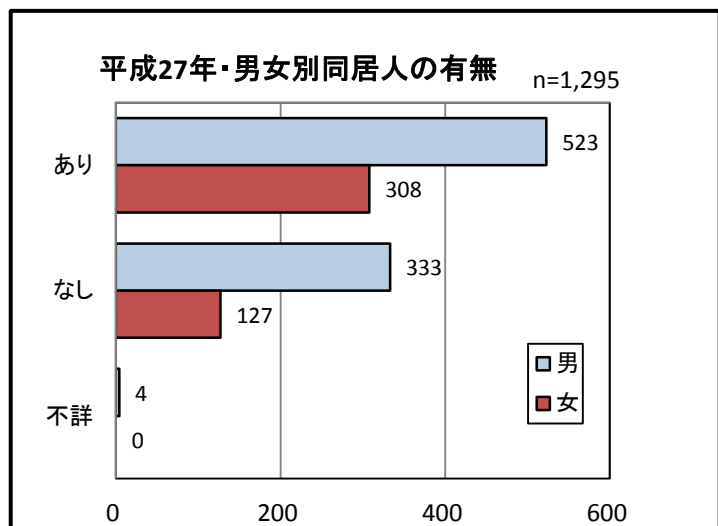
年齢別自殺者数の割合は、今年
は、「40～49歳」が254人（19.6%）と最も多く、次いで「70～79歳」が227人（17.5%）、と続いており、40歳以上の割合が全体の8割近くを占めています。



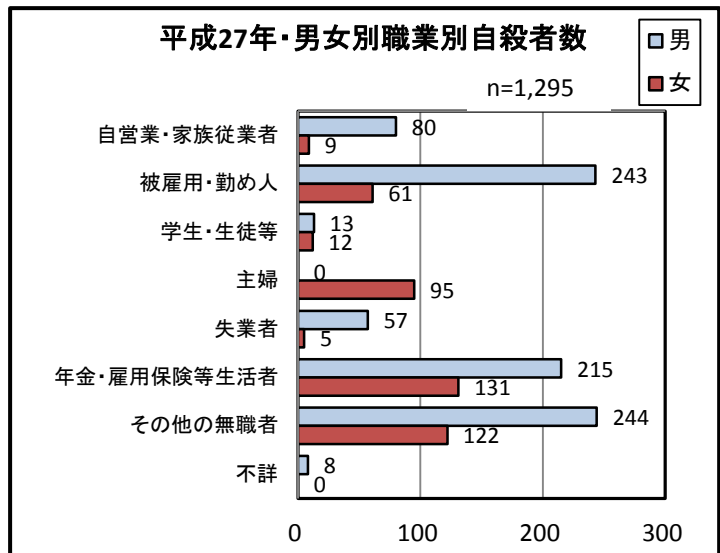
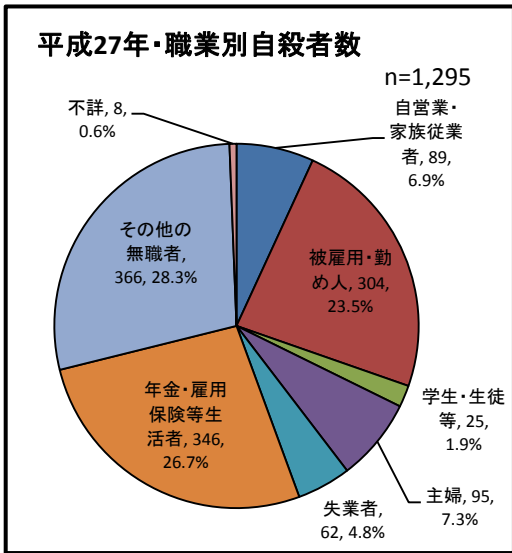
年齢別男女別自殺者数を比較すると、女性は「40～49歳」「60～69歳」「70～79歳」の自殺者数の数値がほぼ並んでおり、男性では「40～49歳」が最も多くなっています。昨年は、男性では60歳代が最も多かったが、今年は、40歳代が多くなっています。



同居人の有無でみると、自殺者のうち、「同居人あり」が831人（64.2%）、「同居人なし」が460人（35.5%）とあり、「同居人あり」の方が6割強と多くなっています。

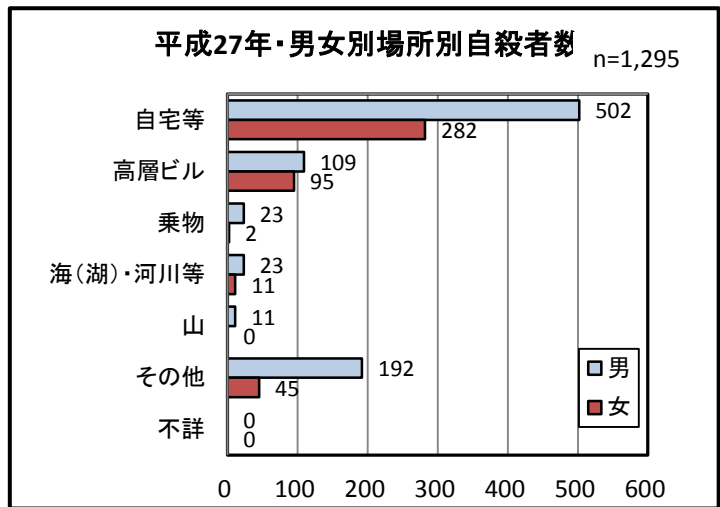
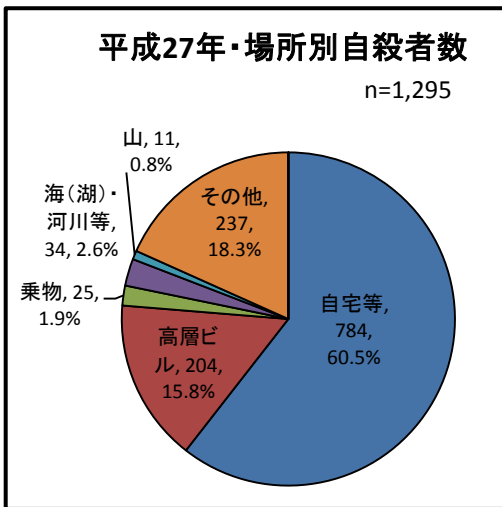


男女別に同居人の有無をみると、男性で523人（60.8%）、女性で308人（70.8%）が「同居人あり」でした。また、男性で333人（38.7%）、女性で127人（29.2%）が「同居人なし」でした。割合で見ると、女性のほうが「同居人あり」が多くなっています。



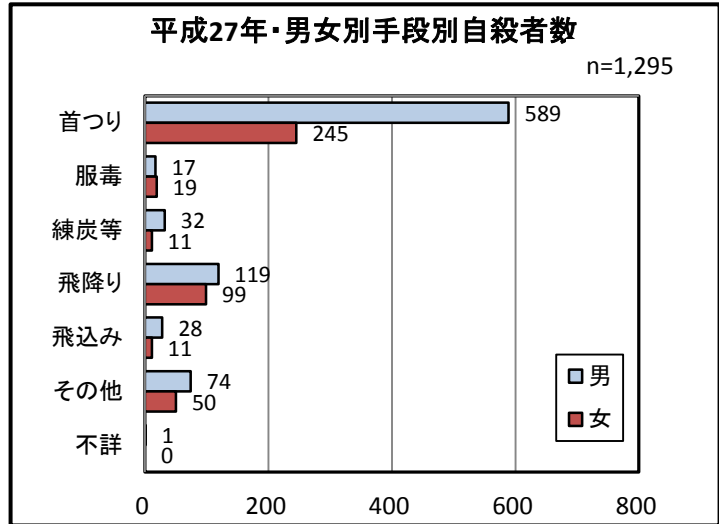
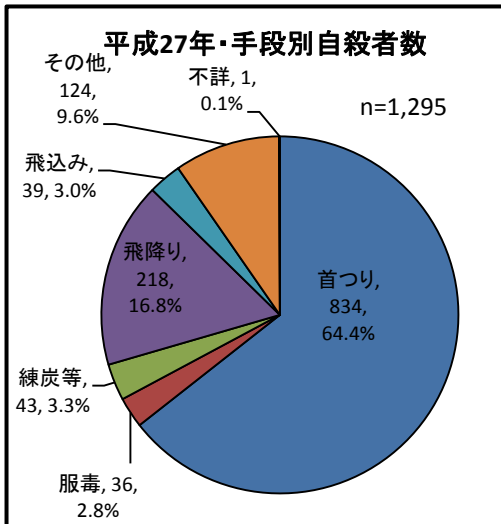
職業別自殺者数の割合は、「その他の無職者」が366人(28.3%)と最も多く、次いで「年金・雇用保険等生活者」が346人(26.7%)、「被雇用・勤め人」304人(23.5%)となっています。昨年までは、「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、4割を占めていたが、今年は、2割強に減少しています。

職業別自殺者数を男女別で見ると、男性は「その他の無職者」次いで「被雇用・勤め人」が多く、女性は「年金・雇用保険等生活者」、次いで「その他の無職者」が多くなっており、男女で職業での違いが明らかとなる結果となっています。



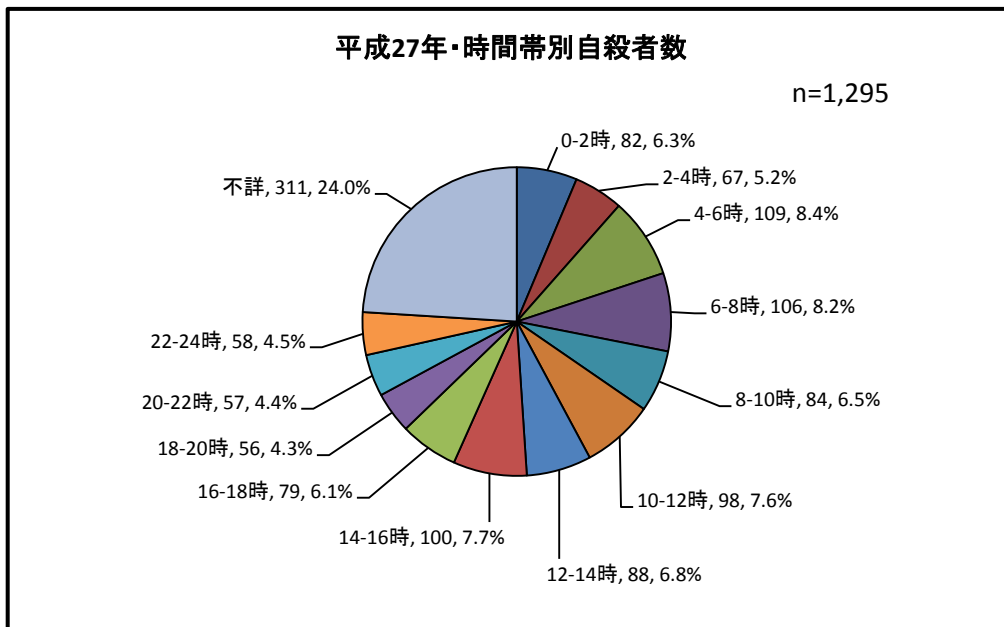
場所別自殺者数では、「自宅等」が784人(60.5%)と6割を超えており、次いで「高層ビル」が204人(15.8%)と続いています。

男女別で場所別自殺者数を見ると、男女共に「自宅等」が多くなっており、次いで男女共に「高層ビル」と続いています。

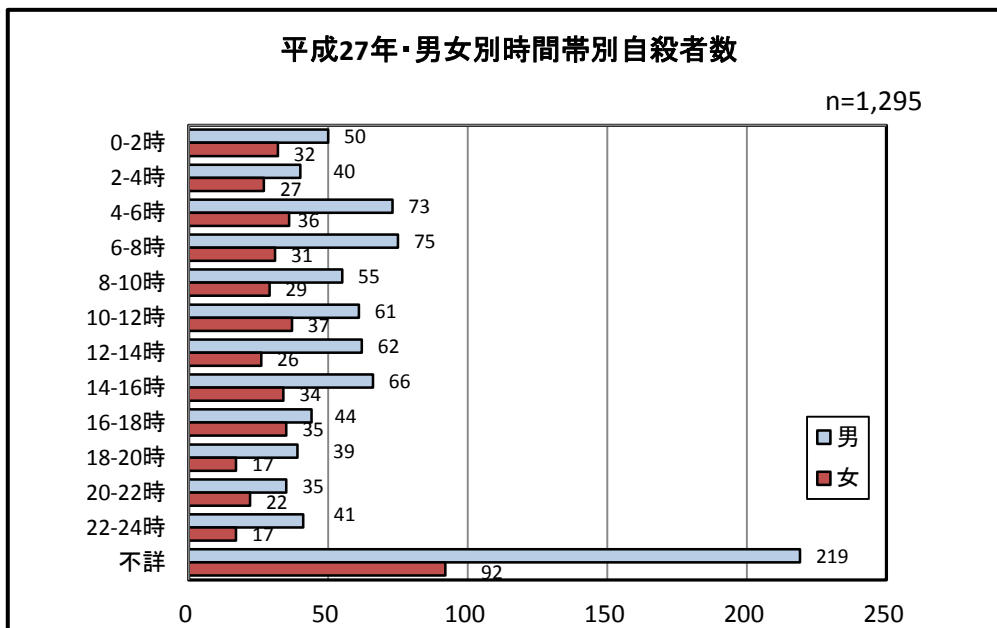


手段別自殺者数では「首つり」が834人(64.4%)と過半数を占めており、次いで「飛降り」が218人(16.8%)となっています。その他の分類においては、昨年と比べると「飛込み」が若干増加し、「練炭等」が減少し、それ以外はほぼ昨年同様の割合となっています。

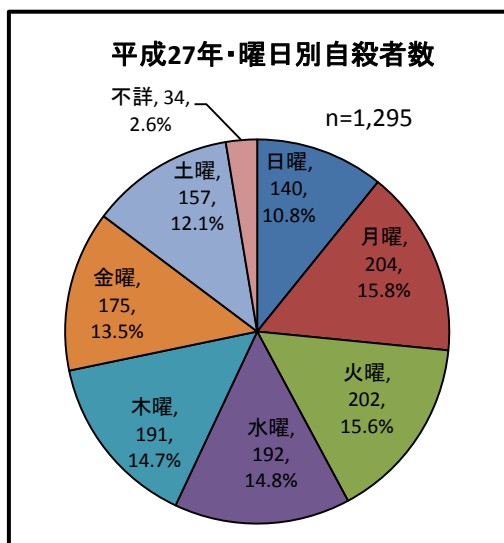
手段別男女別自殺者数を見ると「首つり」が男女共に多く、次いで「飛降り」が多くなっています。その他の項目を見ると、ほとんどの手段で男性が上回っていますが、昨年と同様、「服毒」のみ女性の方が若干多くなっています。



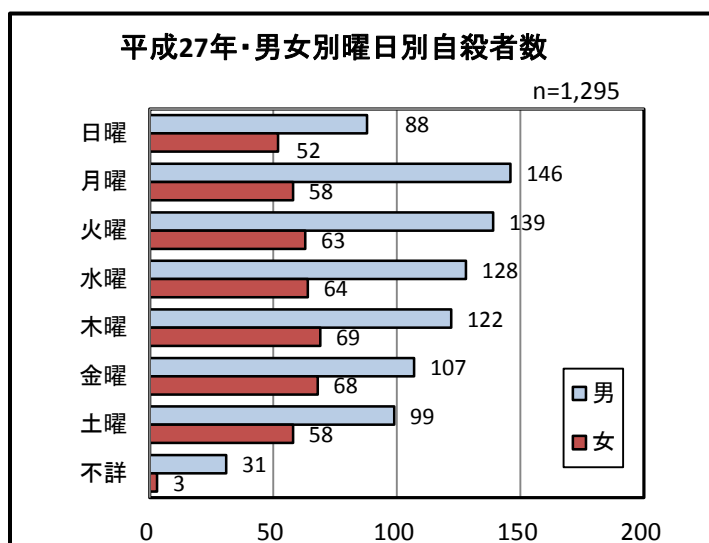
時間帯別自殺者数の割合では、どの時間帯も大差は見られませんが、「不詳」以外で最も多い時間帯は「4-6時」の109人(8.4%)、次いで「6-8時」の106人(8.2%)です。逆に少ない時間帯は「18-20時」「20-22時」「22時-24時」となっています。



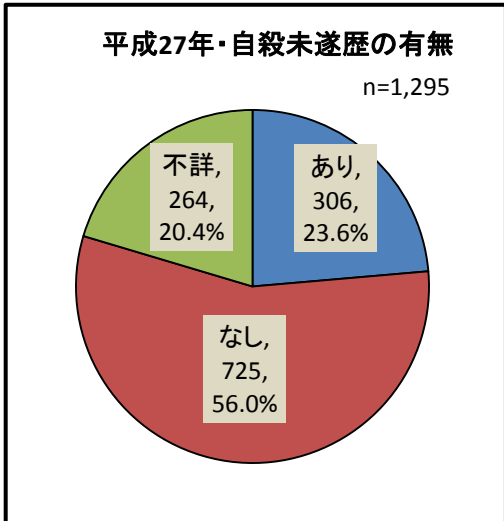
男女別時間帯別自殺者数については、男性で目立つ時間帯は、「4-6時」「6-8時」と明け方に多くなっています。
 女性は時間帯別で見ても、どの時間帯にもあまり大差が見られない結果となっています。



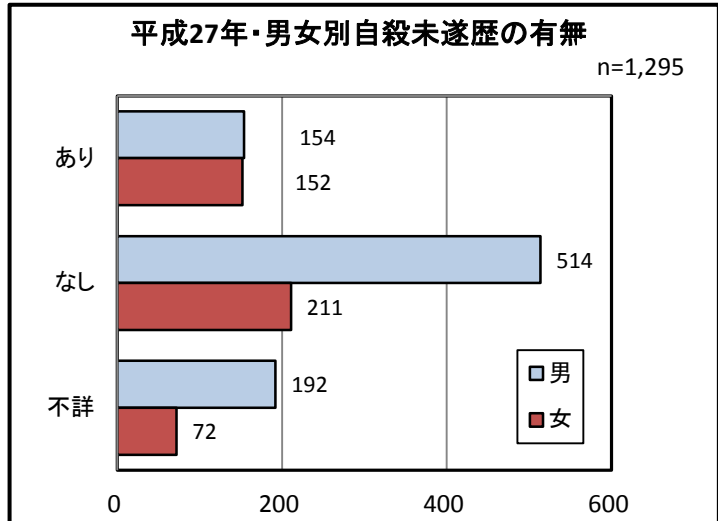
曜日別自殺者数のそれぞれの割合に大きな差は見られませんが、「土曜日」「日曜日」といった休日では若干低く、週始めの「月曜日」「火曜日」の割合が若干高い傾向にあります。



男女別では、男性は「月曜日」「火曜日」の週始めの数値が高くなっており、女性では「木曜日」「金曜日」の数値が若干高くなっているが、女性は各曜日にそれほど大差が見られない結果となっています。



自殺未遂歴の有無では「あり」は306人(23.6%)、「なし」は725人(56.0%)です。「あり」の割合は「なし」の約半分となっています。



男女別に見た未遂歴の有無では、男女別の「あり」の割合を比較すると、男性860人中「あり」の割合は154人(18%)で、女性435人中「あり」の割合152人(35%)の方が、昨年と同様、約2倍多くなっています。